

YMCA 大阪青年 7・8

「英語教育からグローバル教育へ」 ～幼児期に育てておくことから考える～



学校法人大阪YMCA
語学事業グループ長

ふじおか ひろき
藤岡 宏樹

“Good morning!”元気な声が園に響きます。英語幼児園の朝の風景は、挨拶から始まります。もちろん、大きな声で伝えられない園児もありますが、保育者は“Good morning! ○○!”と一人ひとりの名前を呼んで迎え入れます。身支度を終えると園児は、保育室に設置された各コーナーから遊びを選択します。保育者が、年齢ごとに計画的にいろいろな遊びのコーナーを設置することで、園児は、「今日は何で遊ぶか?」と自主的に好きな遊びを選ぶことができます。一人遊びから集団遊びへと遊びが発展していく中、園児は、コミュニケーションの取り方から仲間づくりの方法に至るまで、遊びを通して学びます。そして、「あれ?不思議だな?」「どうしてだろう?」「なぜうまくいかないのかな?」などの課題に気づき、どう解決すればよいかを考えます。時には意見や思いが違い、友だちとの衝突もあるかもしれません。そこに保育者が寄り添い、一緒に考えます。園児たちは、それぞれの意見を聞き、周囲の友だちの意見や保育者からの声掛けも参考にしながら、課題を解決します。もちろん課題によっては、絵本や図鑑、時にはWEBで調べたりすることもあります。これらの過程を、英語を通して実践しています。

英語を取り入れた保育施設では、英語を教えることに重点を置いている施設もあります。しかし、私たちは、幼児期の教育・保育には何が大切

であるか、キリスト教保育の視点から見つめ直し、心と身体のバランスの取れた育みを基盤として、英語による保育を実践することとしました。遊びを通しての言葉の学びは、言葉に対する感覚を豊かにします。思考・判断・表現することの繰り返しを通して知識やコミュニケーション技能が身につきます。学びの内容理解が深まると、子どもたちは、さらに主体的に関わり合おうとします。言葉は、自分自身の考えや思いを相手に伝えるツールであり、相手の思いも受け入れるツールです。この英語という言葉の学びから相手を知り、認め、相手の文化を受け入れることから、平和を創り出す基礎を培うことにつながると考えています。

大場智美氏(多摩大学 グローバルスタディーズ学部専任講師)と岩坂泰子氏(広島大学 大学院教育学研究科 准教授)は、「幼少期の子どもは、自分だけが世界の中心であり、自己の視点から世界を捉えているが、外国語を学ぶことによって脳にダイレクトに『異文化』、つまり、自分以外にも世界があるということを知ることができる。」と指摘しています。そして、「低・中学年の児童は、母語や母語文化の文化心理的枠組みが形成されておらず、異言語や異文化、およびそれらを持つ人々に心が開いている。」(日本児童英語教育学会関東・関西合同プロジェクトチーム,2013年)という報告からも、私たちが実

践すべき幼児期の保育は、英語の詰め込み教育ではなく、平和教育につながるグローバル教育であるといえます。

学習指導要領が改定され、2020年には、小学3・4年生に「外国語活動」、小学5年生からは教科として「外国語」が開始されます。このことを受けて、英語教育熱はますます過熱すると予想されます。しかし、文部科学省の学習指導要領では「外国語」とは「原則英語」とされていますが、「外国語」=「英語」ではないことを今一度確認したいと思います。英語を含む外国語に触れることによって、母語である日本語や日本の文化に対する理解を深めると同時に、言葉とは何か、また言葉が人々の生活の中でどのような働きを持つかという言葉そのものへの意識(メタ言語意識)を喚起することが最も重要です。

私たちYMCAは、IB(国際バカロレア)教育にも示されているような「多様な文化の理解と尊重の精神を通じて、より良い、より平和な世界を築くことに貢献する、探究心、知識、思いやりに富んだ若者の育成」を目的とし、グローバル化されていく時代に、生きる力の根っこを育てる思考力型教育を推進しています。未来を築く子どもたちが、世界を舞台に安心してそして胸を張って自分を表現できる力を培うグローバル教育を、これからも実践していきます。

■大阪YMCAの使命

大阪YMCAは、聖書に示されたイエス・キリストの愛と奉仕の生き方に学び、YMCAの世界的な運動に連なり、希望を持って、共に生きる社会の実現をめざします。

- ボランティア精神をはぐくみ、互いに協力し、明るくあたたかい地域社会の形成に努めます。
- すべての世代の人びとが、出会いと生きがいを見いだすための、生涯にわたる気づきと学びの活動を展開します。

- 未来を築く力強い子どもたちを、家庭・地域社会と共に育てます。
- 生命を尊重する心を養い、自然と人間が調和する働きをすすめます。
- 世界の人びとと力を合わせ、環境、人権、貧困の課題に取り組み平和で公正な世界をめざします。

遊びから学ぶこと ～アフタヌーンプログラム～

大阪YMCA 英語幼児園土佐堀園 スタッフ **Monica Osorio**
うだ ももこ **幸田 桃子**

英語幼児園に子どもたちの手づくりスーパーが開店しました。そこで、子どもたちは元気いっぱい遊びを通して学びを深めています。

研修で訪れたオーストラリアのYMCAビクトリアでの子どものいきいきとした様子、自分自身で様々なことを決断しながら遊ぶ姿にインスパイアされ、このアフタヌーンプログラムの活動を始めることにしました。

園内でも、身近な生活に近い経験をすることが、たくさんの学びに繋がると考えています。役割分担して遊ぶことで買い物の方法を学び、違った年齢の子と関わることで思いやりの心を学び、お店に並ぶものを手作りすることで物を大事にする大切さを学んでいます。私たち保育者が気づいていないところでさえも、子どもたちの心がどんどん育っていると感じます。また、教室とは違った環境に足を踏み入れることで、新たな言葉を学ぶきっかけにもなっています。今まで知らなかった野菜や果物、色や形の名前、お店の人が使うフレーズを、英語を使ってお友達と会話しながら楽しんで遊んでいます。

どこへ行っても、誰と会っても、自信を持ってありのままの自分を表現でき、また自分で決めて行動できる人に育ててほしいと保育者一同強く願っています。この先もプログラムの内容を変え、その度に力を合わせて手作りしながら、学びを深めていきたいと思えます。



YMCAと私

なかしま はるえ
大阪YMCA ランゲージセンター スタッフ **中嶋 春恵**

「英語と子どもが好き！」英会話講師を始めたきっかけは、そんなありふれた理由だったように思います。当初1年間のつもりで始めたアシスタントの仕事が、気がつくと自分が前に立つようになって12年目になっていました。当然ながら、当時担当していたクラスの子も現在は現在20歳になっているわけで、子どもを大人にしてしまう12年という歳月は尊く感慨深いものがあります。

先日、9年前に英語を教えた生徒が海外に留学しました。ランドセルを背負って学校帰りに教室に来ていた少女が大人になり、数ある選択肢の中から海外で語学を学ぶという道を選んだのです。そのことは大変喜ばしく、どこか報われた気さえました。それは9年前に撒いた小さな種が芽を出し、同時に私が「みつか。つながる。よくなっていく。」を実感した瞬間でした。教育というものは、種を撒いてから長い時間を経てやっと花を咲かせます。そしてYMCAで出会った全ての生徒がその種を持っています。その種が、やがて未来で花を咲かせ、そして彼ら自身が次の世代の子ども達に花を咲かせてあげられる大人になることを願ってやみません。



最後列右端が筆者

GTCの戦略に学ぶ —中日本YMCA役員等研修会 報告—

やまさ あつこ
大阪YMCA 統括本部 部長 **山佐 亜津子**

教育、福祉、家族や地域など子どもを取り巻く環境の変化や、人の生活や価値観の多様化が、これまでに類を見ない速さとレベルで進んでいます。あらゆる領域の活動団体や企業が、既存の枠組みと限られた資源で事業活動を継続することは難しく、YMCAも例外ではありません。

6月1日(土)、大阪YMCA会館にて中日本YMCA役員等研修会が開催され、12のYMCAから76名の役員・スタッフが集いました。アメリカのYMCA of the Greater Twin Cities (以下YMCA of the GTC) のCEO グレン・ガンダーソン氏を講師に招き、「YMCA of the GTCの戦略

に学ぶ～Y-USAでチャレンジしているYMCAからの学び～」と題し、講演、その後分団協議を行いました。2つのYMCAを合併し、教育・福祉活動の充実と活性化、会員数の増加、寄付金の獲得等、画期的な成果を成したYMCA of the GTCの戦略に学ぶ機会となりました。

日本のYMCAが、変化し続けるこの社会の中で、常に人、地域、社会に必要とされる団体であり続けるためには、国内海外問わず様々な個人および団体との繋がりを広げ、強めながら、それぞれの賜物を活かす合い、支え合う仕組みの構築が必要であると再認識しました。

大阪YMCAはVISION 2020の中にそれを打ち出し、推し進めてきましたが、今、さらにその先へ向かおうとしています。



キャンプの価値をグローバルで再評価する

おがわ けんいちろう
大阪YMCA 総主事 **小川 健一郎**

「YMCA Asia Pacific Urban Network (通称YAPUN)」は、アジア太平洋地域のYMCA指導者が知恵やアイデアを共有し、コミュニティを強化するための解決策をつくりだすグローバルな視点のプラットフォームです。課題テーマに興味関心のあるローカルYMCAならば、どこでも参画することができます。

5月17日(金)～20日(月)、第7回年次総会が中国・南京で開催されました。大阪、ビクトリア、ソウル、台北、台南、上海、南京、杭州、厦門、武漢、西安、メトロポリタンシンガポールの12YMCAが参加し、過去1年間のサブコミティ(委員会)活動の成果を共有し、また、開催地である中国での青少年育成の課題、南京YMCAのキャンプ事業の将来展望について発表がありました。

2018年度の活動は、2つのサブコミティ、「介護予防」と「水泳」で、特に水泳のサブコミティからは水上安全活動の啓発がコミュニティにより良い影響を与え、事業成長に繋がった報告が、ビクトリア、ソウル、大阪からありました。今回新たに、「キャンプ」と「総合研究所機能」

の2つのサブコミティの開設が決定しました。大阪YMCAは、キャンプ100周年を目前にし、これからのキャンプの価値を再評価していきます。この取り組みを「キャンプサブコミティ」を通して日本だけではなく、各国の社会状況とキャンプの置かれている状況と合わせて評価をして今後の発展につなげていく計画です。来年は、2020年5月に大阪YMCAを会場に第8回年次総会を開催します。



大阪YMCA日本語教育事業50周年記念式典

たてやま ひでのぶ
大阪YMCA学院 日本語学科 学科長 **立山 英展**

大阪YMCAの日本語教育は、さまざまな文化背景を持つ人々が日本語を学びながら、互いに理解し合い共に成長することを願って1969年に始まり、以来50年にわたって国際社会で活躍する高い語学力、優れた人格を備えた多くの人を育成してきました。



50年の節目にあたる今年、5月18日(土)に大阪YMCA会館を会場に大阪YMCA日本語教育事業50周年記念式典を開催しました。当日は関係諸団体や日本語学校からの来賓をはじめ多くのご参加があり、これまでの歩みをお祝いいただきました。午後からの同窓会には、卒業生や長年ご奉仕いただいているボランティアの方等が一堂に会し、思い出話に花を咲かせながら、未来に向かって共に一歩を踏み出す機会となりました。

日本語教育を取り巻く環境は、社会変動と共に日々刻々と変化を遂げております。しかしながら、これからも一人ひとりの学生が生きがいを見だし、「共にいきいきと生きる」社会の実現に貢献できる人財に成長することを願い、時に厳しく、そして優しく、惜しみない支援をしながら、日本語教育を推し進めてまいります。

大阪YMCA創立137周年記念礼拝・Yボランティア研修会

くどう よしまさ
大阪YMCA 活動推進委員 **工藤 義正**

6月1日(土)、大阪YMCA創立137周年記念礼拝とYボランティア研修会が、大阪YMCA会館にて91名の参加のもと開催されました。礼拝は、日本キリスト教団天満教会の春名康範牧師から、聖書「ルカによる福音書24章1節～12節」を通して「思い出してごらん」のテーマでお話いただき、あらためて1882年の創立以来、過去から現在、そして未来へ続いてゆく人々の思いを新たにしました。奏楽は和田早苗さん、献金感謝は川岸清さん、写真撮影は丸尾欽造さんが担っていただきました。

礼拝の後、Yボランティア研修会へ移り、まず小川健一郎総主事からYMCAのミッションを実現するための人財のリクルート及び育成などのテーマで基調講演があり、その後、グループに分かれ、各テーマに沿って活発な協議が行われ、最後に発表をして共有がなされました。



なお、礼拝での皆さまからの席上献金56,309円は「青少年育成活動支援金」として用いさせていただきます。

健康コラム

裸足で運動を ～自分にあった「くつ」を選びましょう～

大阪YMCA ウエルネス事業 スタッフ さかい ゆうな 坂井 祐菜

みなさんは、「くつ」をどのように選びますか。デザイン?好きなブランド?流行り?機能性?おしゃれのためには、自分のサイズより大きめのものを選ぶこともあるようです。

また、子どもの「くつ」を選ぶときは、親の気持ちとしては、どうしても少し大きめを買ってしまうということもあるのではないのでしょうか。

現代のシューズは、非常によく作られています。特に運動シューズは、各種目の特徴に合わせて作られています。アウトソールに競技特性に合わせた溝があったり、インソールのクッションが違ったり、機能性に優れています。

しかし、足を守る機能性が高くなってきているために、「くつ」に守られ過ぎている側面もあります。また、クログ型のサンダルなどを日常的に履くことで、私たちの本来の足の機能が弱くなってしまいうることもあるようです。

YMCAでは、「裸足で運動」を子どものプログラムに取り入れています。足の裏を刺激することにより、足底のアーチ(土踏まず)をつくり、身体が持っている本来の力を発揮できるようにアプローチします。足指、足裏を使うことで直接脳に刺激が伝わり、集中力アップにもつながります。裸足で運動の後、「くつ」を履き靴紐の結び方を学ぶことによって、シューズの機能を活かせるようになるのです。

YMCAでは、からだが持っている本来の力が発揮できるような環境を作っていきたいと考えています。



第25回 大阪YMCAチャリティーラン2019 開催のお知らせ

日時 2019年9月23日(月・祝)9:00~13:00

場所 花博記念公園鶴見緑地 特設コース

申込締切日 2019年8月30日(金)

大阪YMCAチャリティーラン2019 検索

お問い合わせ 大阪YMCAチャリティーラン事務局
TEL:06-6441-0894 FAX:06-6445-0297
MAIL: chari-run@osakaymca.org

ユースリーダー安全支援金ご協力のお願い

大阪YMCAでは、YMCA運動を支え発展させていく担い手であるユースボランティアリーダーの安全と研鑽のために、研修などに用いられる募金を行っています。みなさまのご協力をお願いいたします。

【募金方法】 一口 1,000円

【募金期間】 7月1日(月)~8月31日(土)

【受付窓口】 各YMCA、大阪YMCA統括本部(06-6441-0894)

大阪YMCA「安全の日」について

大阪YMCAでは、屋外での活動の機会が多くなる本格的な夏を迎えるにあたり、毎年7月18日を、大阪YMCA「安全の日」と定め、「生命」の大切さと自分自身の「安全」と他者の「安全」を考える機会として、「安全キャンペーン」を実施しています。

私たちは、日常生活の中で多くの危険なことに直面しながら、知らず知らずのうちに見過ごしたり、気づかなかつたりすることがあります。自分自身は気をつけていても、思わぬ災難、災害の当事者になることもあり、単に軽い怪我だけでなく、尊い生命までも失ってしまうことさえあります。

たった一つしかない自分の「生命」を自分自身で守っていくために、そしてYMCAが大切にしている価値(思いやり、誠実さ、尊敬心、責任感)にも関連し、自分自身と他者の「安全」を考えていくために、この「安全の日」を機会にもう一度、身の回りの安全について、ご家族やお友だちと一緒に考えてみましょう。

なお、大阪YMCAでは水上安全キャンペーンを6月から8月まで実施しています。小学校での着衣泳の体験会、YMCAクラス内での「ウォーターセーフティーハンドブック」の配布とお話、野外・キャンプ活動を通じて、「生命」の大切さについて考える機会を設けています。また、YMCAビクトリア(オーストラリア)、ソウルYMCA、台北YMCA、メトロポリタンシンガポールYMCAと協働し、アジアの子どもの水難事故を減らす活動にも取り組んでいます。

これから暑い夏を迎えますが、身体に気をつけ、健康で有意義な夏を過ごされますようお祈りいたします。

大阪YMCA早天祈祷会

YMCAを愛する人びとによって共に祈る時(毎月第3金曜日予定)が持たれています。YMCAのさまざまな場で活動されている方々にお話をいただき、人生の歩みを分かちあう恵みの時としています。

■第315回 日時...2019年7月19日(金) 7:30~8:30

証し...鈴木一弘さん
すずき かずひろ
(学生YMCA関西地区協働スタッフ)

■第316回 日時...2019年8月23日(金) 7:30~8:30

証し...ト田啓三さん
しめだ けいぞう ※第4金曜日です。
(大阪YMCA役員)

場所...大阪YMCA会館 10階 チャペル

会員・賛助会員としてのご協力に感謝申し上げます。

2019年5月度報告・敬称略

【新規会員】

近藤キクエ
島平恵子
堀千春

【継続会員】

石川梧
井上公男
井之上芳雄
岩永和子
遠藤通寛
大岸弘子
河本武久

小林愛実

齋藤中哉
坂田茂
桜井和之
佐古田修
芝田光雄
巖岡正明
ト田昭子
ト田啓三
津田誠
寺川克
長尾文雄
西村和雄

萩原義明

日野多栄子
福島文子
福山正和
藤井道雄
富士水英一
増成恒哉
松尾博之
松下徹
松野五郎
水野善夫
森田照美
柳谷利起

山田理学

吉川佐和子
吉川尚志
吉田全孝

【継続賛助会員】

ケーアンドイー
株式会社関西支社
積水化学工業株式会社
株式会社西島製作所
三菱商事株式会社関西支社

大阪YMCAのホームページで
その他の情報をご覧ください。

